

他文化とのつながり

京都市立西京高等学校二年（京都府）

木澤 佑月

「世界で活躍するためには、自国の伝統を尊ぶ姿勢が必須」、このような言葉をどこかで耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

私自身もこれまで幾度かこの言葉に触れる機会がありました。ですが、その意味をなかなか理解しきれずにいました。国際社会で活躍するには、英語運用能力や発言力、物事を客観視する能力など、もつと国際社会の常識に合わせるための力をつけ、それに慣れるべきではないか、と考えていたのです。しかし、ある経験が、私のこの考えを変容させました。

それは、私の学校で長期留学をしている学生に体験に來てもらったことです。この体験の中でもひとときわ心に残っているのが、留学生に英語で作法を教えながら、一緒に抹茶を点て、お菓子とともにいただいたことです。私はそのとき、なかなか英語をうまく話せず、もどかしい思いで

いっぱいでした。しかし、彼は懸命に私の思いを汲み取ってくれ、作法も何とか伝えることができ、またお菓子も抹茶もとても美味しいと喜んでくれました。そして何より私が驚いたことは、彼が体験前に茶道について学んできてくれていて、お抹茶のいただき方を、正面を避けるなどといった作法の意味まで含めて理解してくれていたことです。この経験から、私はある二つのことを学びました。

一つは、コミュニケーションにおいては、いかに共通言語が流暢に話せるかよりも、互いの「伝えよう」「理解しよう」という意思が大切だということです。今回の体験の中で、私は決まらずにうまく説明できたわけではありませんでしたが、相手に作法を伝えることができ、楽しんでもらうこともできました。これは、双方が意思疎通をしようと懸命に会話を続けたからだと思います。ここから私は、どれだけ言語に自信がなくても、相手に伝えたいという思いを大切に、伝える努力をし続けること、また逆に相手の話が理解しづらいときにも、思いを汲み取る努力をし続けることが、他文化とつながり続けるのにはとても大切だと学びました。

そしてもう一つは、相手の文化を理解しようとするということです。留学生は、私たちの文化を理解したりよく関わるために、日本人でも知らない人が多い、お抹茶のいただき方を、しっかり理解してくれていました。そしてそのおかげ

で、私たちは彼が私たちに寄り添ってくれていると感じ、喜びを感じました。これは、日本の文化が私たちにとって、生活の思考の根幹にあるものであるからだと思います。そして、彼のような行動を起こすには、まずは自国の文化の大切さを理解しておく必要があります。自国の文化がどのようなように生まれ、育まれ、今いかにして自分と結びついているかを理解すれば、自国の大切さを感じることができ、他文化をもつ人々と関わるタイミングにも、相手の文化を尊重することができ、よりよい関係を築くことができるでしょう。

このように、茶道を通して他文化を持つ人と関わったことで、私は大きな学びを得ることができました。なぜ世界での活躍のために自国の伝統への理解が必要なのかということも、自分なりに理解することができました。これからも、今まですつと私にとつての最も大切な自国の伝統であった茶道に触れ続け、学び続け、たくさんの方の刺激を得ていきたいと思えます。